

《沖縄協同病院の理念》

- 人権といのちの尊厳を守る、無差別平等の医療を行います。
- 地域と共に平和で健康に暮らせる、まちづくりを行います。



《沖縄協同病院医師研修理念》

- 基本的診療能力を身につけることを第一の目標とし、患者を「一人の人間」として捉え、「患者の幸せ」を追求できる医師を養成します。

原水爆禁止世界大会 in 長崎



今回、長崎で開催された原水爆禁止世界大会に参加して、私が原爆について知っている事がほんの一部でしかないと感じました。実際に被爆者からの体験談や想いを聴き、原爆資料館では当時の映像や、原爆投下の経過や被害などを知る事ができ、今まで知らなかった事を学ぶ事ができました。原水禁世界大会に参加させて頂き、世界各国の代表者のスピーチを通して、世界各国で同じ想いを持っている人がこんなにもたくさんいる事を知り、平和への想いが強くなり、この貴重な体験を少しでも周りに伝えていきたいと思いました。

総務課 高橋 敦志



今回、私は原水爆禁止世界大会へ参加させてもらい、被爆者の体験談を聞いて原爆の恐ろしさや悲惨さを知ることができ、また日本各地で活動されている方々の話を聞いて多くの事を学びました。原爆が投下された瞬間はもちろんですが、そのあと生き残った人々もその時の後遺症により亡くなられていきました。また、生き残った人たちは身体だけでなく、心にも大きな傷をおい、今でもその影響を受けているそうです。日本は唯一の被爆国であり、原爆の恐ろしさ、悲惨さを唯一体験した国です。被爆者の方々が年々減少してきている今、直接話を聞くことが出来た私達が、これからは次の世代に伝えて、風化させないことが大事だと思います。まずは職場の同僚や、身近な友人たちに伝える事からはじめ、地道にその輪を広げていくことが核の無い世界をつくるために私が出来ることだと思います。

今回とてもいい勉強をさせていただきました。この世界から核が無くなることを心から願っています。

リハビリ室 徳元 竜太郎



8月7日から9日にかけて行われた原水爆禁止世界大会に参加させていただきました。初日は世界大会の開会式に参加し、2日目に分科会に参加しました。

私は「核兵器と原発」をテーマとした分科会に参加しました。福島での原発事故以降放射線に対して危機感を持っている人が増加していますが、人は生活していく上で必ず少量だが放射線を浴びているので、放射線を浴びない生活は不可能だと述べられていました。注意は必要だが過剰に反応する必要はないと述べられていたのが印象的でした。また福島在住の方も参加されていて、原発事故以降の不安な気持ちを述べられて、まだまだ復興は遠いことを実感しました。

沖縄では平和活動となると米軍基地問題が中心になりがちですが、それ以外にも今回のような核の問題など、平和な世の中の実現のためにはいろいろな課題があります。それらを1つ1つ解決していくように、微力ながら尽力していきたいと思いました。

医療事務課 新田 秋仁

第31回 日本高齢者大会 in 沖縄

シリーズ 第1回

「まちから村からの連帯でひとりぼっちの高齢者をなくそう」「命どう宝 沖縄に 全国に 憲法の輝く平和な未来を」を合言葉に『第31回日本高齢者大会 in 沖縄』が開催されます。

沖縄大会まで残り2ヶ月となりました。各地域実行委員会がそれぞれの地域で奮闘して頂き、参加者や賛同広告、大会への後援の輪を広げています。

日本高齢者大会沖縄大会は、すべての人が必ず迎える高齢期の生活を充実させ生き生きと暮らせる世の中を目指す運動を全国各地にお住いの多くの方と交流し、学ぶ企画が満載です。大会を成功させる事は私たちの生活を良くする事へと繋がっていきます。自らの事と捉え多くの方と力を合わせ、成功を目指しましょう。

第31回日本高齢者大会 in 沖縄 沖縄実行委員会

病院的活動状況 <2017年7月度>

- ・ 外来一日平均患者数：477（前年同月比 +18人）
- ・ 入院一日平均患者数：314（前年同月比 +3人）
- ・ 組合員利用率：54.7%（前年同月比 -2.2%）

下肢静脈瘤

いびき診療

132 心臓血管外科より



足の静脈がミミズのように浮き出て、小さな瘤ができていて方を見ることがあると思います。病名は下肢静脈瘤と言います。脚のむくみ・たるき・こむら返り・色素沈着・皮膚潰瘍などの症状がでます。加齢・立ち仕事・肥満・妊娠などと関係があるようです。

静脈瘤は多くの人が罹患する一般的な疾患で、癌のように早急に処置が必要となる疾患ではありませんが、生活の質（QOL）を高めるために治療は必要です。

近年、メディアで下肢静脈瘤が大きく取り上げられ、疾患の知名度は高まりましたが、間違った情報も広がっています。例えば「下肢静脈瘤を治療しないと血栓が脳や心臓に飛んで、みんな脳梗塞やエコノミークラス症候群、心筋梗塞になる」「下肢静脈瘤を放置しておくと、すぐに足を切断することになる」などです。このような説明を医療機関で受ける場合もあり、多くの患者さんが不安や懸念を抱えて来院します。患者さんにも医療者側にも正確な知識の啓発が十分とはいえない状況です。

なんとなく足がむくむ、だるい、重い、ほてる。こんな何気ない不調、普段から経験されている人は多いはず。下肢静脈瘤が重症化してしまう要因は、この病気のサインを疲労や老化であると自己判断してしまい、見過ごしてしまう点にあります。下肢静脈瘤は「静脈で血液が逆流しているかどうか」が判断のポイントになりますが、とくに初期では見た目ではわからないこともあります。したがって、違和感があれば早目に診察を受けた方がいいと言えます。

当院では下肢静脈瘤専門外来（木曜日）を八月から開始し、最新の下肢静脈瘤レーザー治療（保険診療）を導入しました。下肢静脈瘤で気になる方は、一度当院外来での診察を受けてみてください。

心臓血管外科 吉川 一洋

日本小児難治性喘息・アレルギー学会に参加して

滋賀県の学会会場前には琵琶湖が広がり素晴らしい景色と静かな環境のもと行われました。

一般演題や特別講演などを含め300例ほどの発表がさかに行われ、各施設のエディケーターによる指導のレベルアップを強く感じました。

そして私も今回、演題発表をさせていただきました。本番はアドレナリンがガンガン出ていたと言っても過言ではありません(笑)また、今年、念願の学会認定小児アレルギーエディケーター試験に合格し、その授与式を兼ねての参加でした。この1年間、家族を支えながら勉強するという、私にとって過酷の日々でありましたが、どうか難所を乗り越えることができました。それはそばで支えてくれた小児科医やスタッフの支えがあったからこそだと思います。また、パワーポイント作成の際にも医師や薬剤師さんが自分の時間を割いて力を貸してくださり、自分一人では成し得なかったと思います。チーム医療の大切さや偉大さを感じ、感謝の気持ちでいっぱいです。今後は発信源になるべくして邁進してまいります。アレルギーに興味がある方、いつでもwelcomeです。

2階外来 金城 祥子



<ご意見・ご要望>

整形外科待合の患者さんから、待合のソファの配置について提案がありました。

「二人掛けと四人掛け長椅子を交互に配置するなどして、車いすのスペースを確保してもらいたい。」との提案で、現在は、診察室前の廊下に車いすがはみ出る形で待機するため、廊下がせまくなり家族も気を遣うことがあるとのことのご意見でした。



<ご返事>

さっそく整形外科の外来職員で話し合い、ご意見をとり入れた配置に変えてみました。

配置を変更した後、通路が広くなったので、本人様と付き添いの家族の方の安心、また通行する方たちの安全も守られることになったと思います。

しばらくこの配置で様子を見て、改善の必要があれば、検討していきたいと思っております。貴重なご意見、ありがとうございました。

整形外科外来 職員一同



鎮魂の夏

画・内科医 上原 和博

みんなで学んだハンセン病

～差別のない社会を目指して～

沖縄民医連医系奨学生の合同企画として、8月18日(金)・19日(土)にサマーキャンプを行いました。今年のテーマは「ハンセン病」です。沖縄愛楽園交流会館にて学習会を行い、ハンセン病の基礎的な学習として、常設展示室を見学しながら説明を受け、沖縄愛楽園の歴史や、ハンセン病問題について概観することができました。また、愛楽園入所者の方からハンセン病患者に対する差別など、実体験に基づいた話を伺うことができ、疾病だけでなく、患者のリアルな生活を捉えることができました。フィールドワークとしては「平安乃苑」、「声なき子供たちの碑」を見学し、差別により亡くなった命に黙とうを捧げました。学習後はスモールグループディスカッションを行い、自由な意見交換を行う中で、学んだ事を自分の中に落とし込み、またそれをアウトプットする時間となりました。

交流会や2日目のお楽しみ企画(海洋博公園)では学部・学年関係なく交流を行うことができ、将来共に働く仲間であることを実感することができました。

今回は全体で学生参加が11名と、例年と比べ少なかったのですが、患者の人権を守り、患者に寄り添う姿勢を得るためどのような行動を行えばいいかを全員で考えることができました。今後も医系奨学生がより良い医療者となるため、学びを援助していきたいと思っております。

沖縄民医連 医学生担当 久志鈴里



ハルサーだより

カタブイ(片降り)

最近よく目にする「記録的短時間大雨情報」という見なれない言葉。本土ではゲリラ豪雨でがけ崩れや洪水などの被害が出ているようだが、私の地域(豊見城)は「記録的長時間干ばつ」が続いている。沖縄全体ではなく、私の地域と限定したのには理由がある。ネットで最近の雨雲の動きを見てみると、中北部にはコンスタントに降雨があるが、私のアタイグワーには降水確率が90%でも降らないのだ。中北部にカタブイ(部分的降雨・通り雨)しているのである。たまにカタブイしても五分で去っていく。六月三十日にウリー(畑を潤すほどの大雨が降ること)としてから、まともな雨が降ってない。焼けつくような日々が続く中、アタイグワーの野菜たちは焼け石に水状態。昼は強烈な太陽に焼かれ、夕方は水で生かされるという繰り返しを二カ月近く続けた後、力尽きて枯れていく。こだけ温暖化が進行しているようだ。

さて、辺野古は県民の反対を無視して工事が進められている。辺野古新基地建設反対の理由は山ほどあるが、私の今の不安は、基地があるが故にテロや北朝鮮のミサイルの標的になることだ。先日、グアムが標的にされて騒がれたが、沖縄上空はすでに何度も発射実験済である。照準を沖縄に向けておくことは容易だ。ミサイルはカタブイのように沖縄のどこに降るか分からない。雨雲であれば、自分の畑に誘導したいが、ミサイルを誘導するために嘉手納以外にも大きなものを造ろうとするのはとても愚かである。

ハルサー 金城 稲子